

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 26 No 4

297号

平成30年 4月 6日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

子宮頸がん予防ワクチン考

院長



ここのところ、積極的勧奨が差し控えられているHPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）の接種を再開すべきとの機運が高まっています。ワクチンに関しては、2013年7月号CLINIC NEWSに掲載し、YouTube「子宮頸がん予防ワクチン接種」（QRコード）でも情報を提供しています。

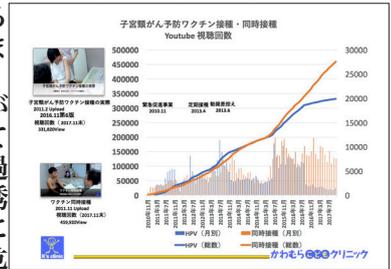
まずは少し、子宮頸がんのおさらいをしましょう。子宮頸がんのほとんどがヒトパピローマウイルス（HPV）によって起こることがわかっていて、50歳までに80%の女性（性交経験）が感染します。通常はヒトの免疫力でウイルスが排除されますが、感染者の0.1%が子宮頸がんを発症するといわれています。子宮頸がん予防のためのワクチンが開発され、日本では2013年4月から、小6から高1女子を対象に、定期接種が始まりました。しかし、接種後に痛みや運動障害などの体調不良の訴えが相次ぎ、さらには副反応とされるケースの映像が流れ、国は6月に「定期接種は中止しないが、積極的な勧奨を差し控える」とし、現在まで続いています。

機運が高まってきた理由のひとつが、医師でジャーナリストの村中璃子氏のジョン・マドックス賞受賞です。ジョン・マドックス賞は、科学誌「ネイチャー」元編集長の功績を記念した賞で、公共の利益のために妨害に耐えながら科学と認知を広めることに貢献した個人に与えられるものです。村中氏は2014年頃HPVワクチン接種後の副反応としてメディアに出てくる女の子の姿を見て、薬害なのかとの疑問から取材を始めました。同様な症状はワクチン未接種者でも、思春期特有の症状として訴えることがあることを知り、HPVワクチン接種後の副反応といわれている症状は薬害ではないのではないかを検証する記事を次々と発表しました。さらにHPVワクチンが脳に障害を与えるとの厚労省研究班に対して、データねつ造を指摘する記事も書きました。そのような活動の中、抗議や訴訟などの障害や妨害に遭いながらも活動を続けていったことが評価されたものでした。

さて、真実はどこにあるのでしょうか。子宮頸がん予防ワクチンは世界中で導入され、その有効性は確認されています。にも関わらず日本での接種率は定期接種開始直後70%程度あったものが、副反応騒動の影響で1%未満まで低下しています。WHOは2015年「若い女性たちはワクチン接種によって予防するHPV関連のがんに対して無防備になっている。弱い科学的根拠に基づく政策決定は、安全かつ有効なワクチンを使用しないことにつながり、実害をもたらさう」と日本を名指して

批判しています。加えて2017年にも改めて「HPVワクチンと様々な症状との因果関係を示す根拠は今のところない」「HPVワクチンは極めて安全」という見解を公表しました。またYouTubeの解説に載せてありますが、大阪大学産科学婦人科学上田豊助教授らの研究では、接種率が高い時期と低い時期のHPV（ヒトパピローマウイルス）の感染リスクを算出し、接種をしなければ感染率が高い集団が生じることを明らかにしました。ちょっと難しい話ですが、ワクチン接種を受けなければ、子宮頸がんになる確率が高くなると結論付けています。更には2016年4月に日本小児科学会や日本産科婦人科学会など17の関連学会が積極的な接種を推奨する見解を発表しています。

さて多くの医師が接種再開を望んでいるにも関わらず、一般の方の意識が変わらなければ接種率は上がりません。クリニックのYouTubeの視聴回数の推移と他動画との比較から、その理由について考えてみます。YouTubeには43本の動画があり、総視聴回数は1,385,933回（2018.4.5現在）です。100万回を超える視聴があることに、きっと皆さんは驚いていることでしょう。「ワクチン同時接種」と「子宮頸がん予防ワクチン接種」の視聴回数はそれぞれ52万回と33万回です。図に両ワクチンの視聴回数の推移を示しました。ほぼ同じ時期の掲載で、最初は同様な増加を示していました。ところが、2015年7月を境に両者の差が少しずつ開くようになり、2016年7月から「子宮頸がん予防ワクチン接種」は横ばいとなりました。現在は「ワクチン同時接種」とは19万回と大きな差になっています。差が開き始めた頃はメディアで副反応の映像が流れるような時期と一致しています。その後映像が流れなくなったにも関わらず、差が大きくなったのはどうしてなのでしょう。推測に過ぎませんが、メディアの誘導とも思える悲惨な映像により、HPVワクチンを危



険視し否定する意識が生まれ、無関心となったとされています。この無関心ということが大きな問題で、この意識を変えることは非常に難しいことなのです。

さて院長はどう考えているのでしょうか。まずはNEWSで何度もとりあげているVPD（ワクチンで予防できる病気）です。ワクチンは細菌やウイルスによる感染症を予防するための手段ですが、数多い感染症のうちワクチンによって予防できるのはほんのわずかです。せっかく病気を予防できる方法があるのに接種しないことは不幸なことであり、もったいないことと考えワクチン活動に積極的に取り組んでいます。子宮頸がんは20~40歳代の女性で増加し、国内では年間1万人以上が罹患しています。また年間約2900人が死亡し、過去10年間で死亡率が9.6%増加しています。このままでは日本は先進国の中で最も女性を大切にしない国になり、多くの女性が子宮を失ったり、命を落としたりすることになるかも知れません。

もう一度、HPVワクチンの意義を理解して、積極的な接種を考えてみましょう。

4月のお知らせ

- ・東北大学医学部学生実習
19日(金) よろしくお祈いします
- ・栄養育児相談
4、25日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料
- ・休診のお知らせ
20日(金)~21日(土)
日本小児科学会(福岡)



読者の広場

先月は7通のメールをいただきました。25周年のお祝いメールも頂きました。今回のメールは特別嬉しいメールばかりです。



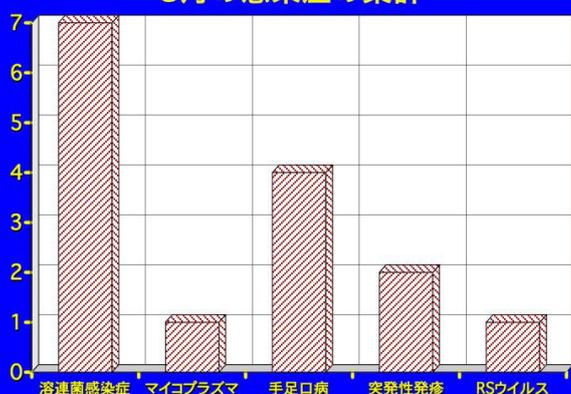
まずは、黒川郡大和町の吉田さんからです。「いつもお世話になっております！昨日もお世話になり、ありがとうございました。その後、〇〇は〇〇同様、咳も鼻水も増えて、早めに診てもらって良かったと思いました。今朝 Facebook をみていたら、先月のメールで開院 25 周年のメール募集があったのを思い出し、バタバタと過ぎてすっかり送ってなかったなあと思い、メールします！ただ、感謝の気持ちなので、載せてほしいとかではありません。(笑) 締切は締切ですが！私は、幸町中卒で高校も電車や自転車で乗り継いでいたので、チョー地元なんですけど、当時は小児科のこと知りませんでした。でも、出産して実家にお世話になることが増えて、〇〇が7ヶ月頃初めての熱(突発でした)を出したときに、お世話になったのが川村先生でした。ちょうど水遊びした後だったんで、私が悪かったのかなあとドキドキしていたのですが、先生は「免疫がなくなると、いろんな風邪をひいて強くなるんだよ」というようなお話をしてくれて。私は泣きそうだったのを覚えています！私は保育士をしていたのですが、初めての子育てで我が子のこととなるとわからないことばかり、不寝もいっぱい、そんな時の先生の言葉は忘れられないものばかりです。昨年、パートで仕事復帰してからは、〇〇は母に見てもらっているんで、仕事帰りに先生にお世話になることができて、とてもありがたいです★ちょっと遠いけど、私たち家族にとっては、一番のかけつけの先生です！先生もスタッフの皆さんもとても暖かくて、居心地もイシシ…混んでいても苦にならないくらいです(^-^)/…これは言い過ぎかな(笑) これからもずっと信じていますので、ご指導よろしくをお願いします m(_)_m

次は宮城野区の千葉さんからのメールです。「いつもお世話になってます。千葉勇太、光梨の母です。今シーズンは勇太のインフル B から始まり、次は光梨のインフル A。やっと元気になったと思ったところに今度は熱と鼻水で本人も珍しく食欲と元気がなく水曜日に心配受診させてもらいました。かわむら先生から、「糖分の入ったポカリなどの水分補給もするように」と言われ(実はポカリが苦手でお茶だけ飲んでたのですが、..) 親の言うことは聞かないけど、かわむら先生の言うことはしっかり聞いてくれて(;´∨`)ポカリも少しずつ飲むようになったおかげが、水曜日の病児保育でも帰宅後の夜も熱は上がりませんでした。水曜日の朝は食欲はまだ戻らず泣きながら学校に行ったものの、給食は全部食べて帰ってきて、すっかり元気になりました。私自身も子供たちのインフルエンザで仕事を何日も休んでしまい、もう休めないよ と半分泣いていたので病児保育の用紙を書いてくださり本当に助かりました。1月から鶴ヶ谷に引っ越して、やむなく転校することになってまだ慣れません(・_・;) 小松島にまた戻りたいと、先生やスタッフの方に泣き言を言いそうになりましたが(佐藤さんにはちょっと言ってしまいました) 二) こうやって変わらずに安心できる場所があり力をもらえてるので、もう少しがんばってみようと思っています。いつもありがとうございます。これからもどうぞよろしくをお願いします。遅くなりましたが開業 25 周年おめでとうございます！たくさん病気の子がいる中で体調崩すこともあるでしょうに、先生はじめスタッフのみなさんもいつもクリニックをあけててくれてありがとうございます。でも無理せずどうぞお体に気を付けてくださいね。」

続いては蒼葉区の吉田さんから診察室での号泣エピソードです。「今日、診察して頂きました吉田〇〇と〇〇の母です。いつもお世話になりまして、ありがとうございます m(_)_m 〇〇も薬を飲んでゆっくり過ごしております。勇気を出してメールさせて頂きました(>_<) 先日、〇〇のインフルエンザを診察して頂いた時に先生の前で号泣してしまって、恥ずかしい気持ちでいっぱいでした…。泣いてしまったなんて誰にも言えません～涙。緊張がほぐれて安心して、自然と涙が出てしまいました。この歳になって、人前で涙してしまうなんて自分にびっくりです(>_<) そんなことがあったので、今日の診察を受けるときに、どうしようどうしようと思っていたんです。ですが、先生は「母親は心配する生き物なのよ！お母さん！」と言って頂き、またまた胸が熱くなりました(涙)(今日は泣きませんでした！！泣きそうでしたが(笑)) こんな私に向き合ってください、感謝しております。かわむら先生にそのように言って頂いて自信がつかました！！かわむら先生のお話を聞くと心が軽くなります。また宜しくお願い致します。どうもありがとうございました！！」

今回もらったメールの掲載に関しては恥ずかしいとのことでしたが、ちっとも恥ずかしくありません。こんな想いを医師に届けられること自体、なかなかないことです。逆にいえば、こんな嬉しいメールをもらう医師もなかなかいません。これが患者さんとクリニックのコミュニケーションなのでしょう。本当にうれしいメールをありがとうございました。

3月の感染症の集計



インフルエンザ流行は終息し、3月下旬からはほとんど見られなくなり、先月は41人で1/3以下になりました。感染性胃腸炎が多少多いぐらいで、特別な感染症の流行はありません。ただ本来なら夏に流行するはずの手足口病が、寒い季節にもかかわらず2ヶ月連続でみられました。以前と比べると感染症の季節性も薄くなってきたように感じられます。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は 600 人を越えるお母さんが登録し利用しています。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。下の QR コードから是非登録をお願いします。

その他の情報発信として Facebook ページ、YouTube にも取り組んでいます。最新情報は FB をどうぞ。Mail News が、かなり戻ってきます。届かない場合は kodomo-clinic.or.jp をドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



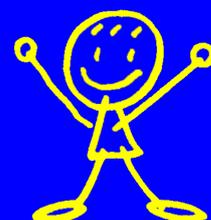
MailNews



Facebook

編集後記

子宮頸がん予防ワクチンに皆さんはどんな思いを持っているのでしょうか。副反応といわれる悲劇的な映像が印象に残っているはず。しかしながら若くして子宮頸がんと戦っている姿は見えません。子宮を摘出した、母親や奥さんを喪った悲しい映像は目にするがありません。3000 人近い若い女性が亡くなっていることも知りません。この機会にしっかりと子宮頸がん予防ワクチンのことを考えてください。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！